

東正自動車整備工場

従来、外注が必要であったハイブリッド車整備の一貫提供体制が構築でき、
技術的・価格競争力が向上した

取り組みの経緯

1981（昭和56）年に自動車整備業として創業以来、普通乗用車や軽自動車、貨物車の整備、販売を主に行っている。近年では、ハイブリッド車の普及により、新車から中古車までハイブリッド需要が高まっていた。

ハイブリッド車の整備には、一般自動車に比べて診断項目が多いため、車の制御系について各々の制御結果（警告ランプの点灯・消灯など）が正しく機能しているかを判定する専用の故障診断機が不可欠である。しかし、同社はハイブリッド車専用の故障診断機を備えておらず、自社で故障診断が行えないのが問題であった。そのため、ディーラーに外注しての故障診断が必要であり、外注先への搬送回数が故障車修理工程で2回、事故車修理工程で3回、車検整備で2回も必要になっていた。しかも、場合によっては止むを得ず外注診断先で修理依頼せざるを得ない状況になり、修理代が高くつくことがある。外注費用がかさみユーザーにとっても負担となり、「同社で故障診断から整備まで一貫して対応してほしい」という声も多かった。

そこで、地域のハイブリッド車に関する需要に対応するため、今後はディーラーに頼らずに町工場でもハイブリッド車が十分整備できるように専用設備の導入を図ることにした。

事業の具体的内容及び効果

今回導入した「オシロ機能付診断機」は、ハイブリッド車の故障診断を実施し、故障箇所の特定に活

用する機械。車両に直接差し込んで、故障箇所をコンピューターにリンクさせて故障診断を行い、これをさらに専用のパソコンに繋げることで細かい分析ができる。細かい故障を追及するには絶対不可欠なものだ。診断機の導入後は、自社で全てのメーカーに対応した診断が行えるようになり、正確な故障箇所やコンピューター制御をしているセンサー類の診断が可能になった。

さらに、外注への搬送がなくなったことにより、故障車・事故車の搬送回数の合計が7回から2回に減り、自動洗浄機を導入したことで納期を1日分早めることに成功。従来は、ハイブリッド車の車検で4日かかっていた作業が2日ほど短縮でき、翌日には納車できる状況が整った。また、事故や故障も軽度なものであれば9日～12日程度かかっていた日数が5日～8日程度と、4日ほど短縮させることが



従来のリフトは30年以上前の機種で、アームの可動範囲が狭く新たな規格に対応できず、重量の重いハイブリッド車を安全にリフトアップすることが困難だった。今回新たに新規格の上、幅が広くて重量のあるハイブリッド車でも安全にリフトアップできるリフトを設置した。



新導入したエンジン台。ハイブリッド車のエンジン、及びハイブリッドシステム部品の脱着の受け台に活用

東正自動車整備工場

〒300-0734 稲敷市結佐3581
TEL.0299-78-3533 FAX.0299-78-2080
資本金：なし
従業員数：5名

車検・整備、新車・中古車販売、東京海上日動火災
保険代理店、オークション代行・販売

事業概要

現在、増加傾向にある地域のハイブリッド車の整備需要に対応するため、診断機、専用工具、リフト、洗車機などの専用整備の導入によるハイブリッド車専用工場への改修を行った。

できた。

ハイブリッド乗用車とトラックの点検・整備・修理時に、タイヤの脱着や下周りの作業を行う際に活用するリフトも新たに導入。新規格である上、幅が広く、重量のあるハイブリッド車に対応可能となった。



幅広い車種に対応できる故障・車検用診断機を導入。機械に故障コードと故障名称が表示される

事業成果の活用・今後の取り組み

今回の事業取り組みにより、ハイブリッド車の整備に対応するための専用設備を導入し、ハイブリッド車の整備対応の内製化に成功。従来から実施している損害保険などの関連サービスと組み合わせることで、販売から損害保険、車検・修理、廃車といったハイブリッド車に関する全てのサービスがワンス

トップで提供できるようになった。現在では、ハイブリッド車の特殊な整備が自社で行えるようになり、ディーラーと同程度の価格、もしくはそれ以下の価格で提供可能な状況である。今後は本格的に営業活動を展開していき、売り上げの拡大を図る。

また、「ハイブリッド車は構造が複雑で操作が難しそう」というイメージを持っている人が、ハイブリッド車をより身近に感じてもらえるように、自社ホームページを設置して広く魅力を伝えていきたい考え。

さらに、着実にハイブリッド車の修理や車検の台数をこなし、技術面をさらに伸ばしていくと考えている。「当初はハイブリッド車専用工場への改修ができるか不安でしたが、現在では自信を持って作業に取り組んでいます。これからも、時代の流れについていける田舎の自動車修理工場を目指していきたいです」と専務取締役の根本直義さんは話す。



従来は納車前に1台につき1時間かけて手洗い洗車を行っていたが、洗車機を導入後は自動洗浄になり、15分で仕上がり作業効率が向上した



根本 直義さん
東正自動車整備工場
専務取締役

「年々、高度化していく『衝突安全装置』『自動運転装置』『低燃費性能』などの先進的技術が投入され続ける自動車を、常に理解して高い修理技術を維持していくことで、ユーザーにとって身近で信頼ができる『町医者』のような存在になれるように努力していきたい」